

第三部 主意主義の功罪

西欧から世界へ。

ロシア：社会主義を引き継いで大国に。

アメリカ：資本主義 or 自由主義を引き継いで大国に。

西欧の没落 (Spengler, 1918-22)。

第二次世界大戦後、第三世界の台頭。

米ソ対決：熱戦を孕んだ冷戦へ。

こうした近代社会の世界への拡大、そのうえでの世界的社会変動の主要な動力としての主意主義。

XII 政治主義とマルクス主義社会学

1 19世紀ロシアの社会と思想

デカブリストの乱から西欧派とスラヴ派の対立へ：皇帝、人民、インテリゲンチヤ
ロシア人民主義 (ナロードニキ)：チェルヌィシエフスキーと両派分裂
プレハノフ：西欧型社会民主主義と社会心理学的史的唯物論

2 政治主義的主意主義の形成：レーニン (1)

戦闘的ナロードニクと西欧亡命体験：プレハノフの影響とマルクス主義
『ロシアにおける資本主義の発展』：資本主義の発展とウクライナの問題
『何をなすべきか？』と『唯物論と経験批判論』：自然発生性批判と主観主義批判

3 帝国主義論、国家論、革命論：レーニン (2)

『帝国主義』：第二インターにおける論争の、段階論による止揚
『国家と革命』：階級独裁の手段としての国家、国家の死滅
帝国主義の弱い環：一国革命と世界革命

4 永久革命論と社会主義的本源的蓄積論

革命後ソ連の可能性と共産党指導部内の主導権争い
永久革命論と世界革命論：トロツキー
一国社会主義と社会主義的本源的蓄積論：プレオブラジェンスキー

5 世界資本主義と国家資本主義トラスト：ブハーリン (1)

世界経済、世界資本主義、「国民」国家、国家資本主義トラスト
イデオロギー革命、政治革命、経済革命、技術革命
過渡期の組織形態と強制的な自己組織化：プロレタリア独裁下の生産管理制度

6 マルクス主義社会学としての史的唯物論：ブハーリン (2)

社会科学・社会学論：階級的性格、歴史学と社会学、現実的総体としての社会
均衡論：社会と自然とのあいだの均衡、社会の諸要素間の均衡、社会類型
動態論：社会的均衡の破壊と再生、社会革命、階級と階級闘争、無階級社会
1937年、トロツキー派と連絡して反革命陰謀に加担したとして逮捕。38年、処刑。
ペレストロイカのなかで復権。映画。

文献

Spengler, O., 1918-22, *Der Untergang des Abendlandes: Umrisse einer Morphologie der Weltgeschichte*, 2 Bde.. (村松正俊訳, 1971, 『西洋の没落：世界史の形態学の素描』2巻、五月書房)

Плеханов, Г.В., 1895, *К вопросу о развитии монистического взгляда на историю* (川内唯彦訳, 1963, 『史的一元論』岩波書店)

Плеханов, Г.В., 1898, *К вопросу о роли личности в истории* (木原正雄訳, 1958, 『歴史における個人の役割』岩波文庫)

Плеханов, Г.В., 1908, *Основные вопросы марксизма* (恒藤恭訳, 1955, 『マルクス主義の根本問題』世界大思想全集 14、河出書房、鷲田小彌太訳, 1974, 『マルクス主義の根本問題』福村出版)

Ленин, В.И., 1899, *Развитие капитализма в России*, *Полное собрание сочинений*, 5 из, том 3, 1960 (マルクス・レーニン主義研究所訳, 1954, 「ロシアにおける資本主義の発展」『レーニン全集』3、大月書店)

Ленин, В.И., 1902, *Что делать?*, *Полное собрание сочинений*, 5 из, том 5, 1960 (マルクス・レーニン主義研究所訳, 1954, 「何をなすべきか」『レーニン全集』5、大月書店)

Ленин, В.И., 1903, *Материализм и эмпириокритицизм*, *Полное собрание сочинений*, 5 из, том 16, 1962 (マルクス・レーニン主義研究所訳, 1954, 「唯物論と経験批判論」『レーニン全集』14、大月書店)

Ленин, В.И., 1917, *Империализм, как высшая стадия капитализма*, *Полное собрание сочинений*, 5 из, том 27, 1962 (マルクス・レーニン主義研究所訳, 1957, 「資本主義の最高の段階としての帝国主義」『レーニン全集』25、大月書店)

Ленин, В.И., 1917, *Государство и революция*, *Полное собрание сочинений*, 5 из, том 33, 1964 (マルクス・レーニン主義研究所訳, 1957, 「国家と革命」『レーニン全集』25、大月書店)

Троцкий, Л.Д., 1930, *Перманентная революция*.

Trotsky, L., 1930, *My Life: an attempt at an autobiography*.

Trotsky, L., 1937, *The Revolution Betrayed: what is the Soviet Union and where is it going?* (山西英一訳, 1959, 『裏切られた革命』論争社)

Преображенский, Е.А., 1922, *От непа к социализму*.

Преображенский, Е.А., 1926, *Новая экономика: опыт теоретическая анализа советского хазайство*. (救仁郷繁訳, 1969, 『新しい経済：ソビエト経済に関する理論的分析の試み』現代思潮社)

Бухарин, Н.И., 1917, *Мировое хазайство и империализм*. (西田勲・佐藤博訳, 1970, 『世界経済と帝国主義』ブハーリン著作選3、現代思潮社)

Бухарин, Н.И., 1920, *Экономика переходного периода*. (救仁郷繁訳, 1969, 『過渡期経済論』ブハーリン著作選1、現代思潮社)

Бухарин, Н.И., 1921, *Теория исторического материализма*. (佐野勝隆・石川晃弘訳, 1974, 『史的唯物論』青木書店)

Бухарин, Н.И., 1924, *Империализм и накопление капитала*. (佐山清訳, 1930, 『帝国主義と資本の蓄積』希望閣)

Герцен, А.И., Бакунин, М.А., Чернышевский, Н.Г., Ткачёв, П.Н., Лавлов, П.Н., Михайловский, Н.К.

XIII 精神分析とマルクス主義の革新

1 「西欧の没落」の内面的原因：フロイト（1）

ブルジュワ社会の爛熟と内面的頹廃：さまざまな精神病理
精神医学者フロイトの形成：ウィーン、ブローイアー、フランス留学
夢判断：願望充足、歪曲、圧縮、移動、象徴的表現、退行、抑圧、意識と無意識

2 日常生活、性欲動、原始社会と近代社会：フロイト（2）

日常生活の精神病理：度忘れ、言い違い、為損ない、思い違い、などの原因
性欲論：性欲動、性的倒錯、性的抑制、反動形成、昇華、アンビヴァレンツ、固着
トーテムとタブー：近親性交忌避、アンビヴァレンツ、未開人と現代人

3 戦争と死、大衆心理学、精神分析の大成：フロイト（3）

人はなぜ殺し合うのか？ 無意識のなかの原始人、エロスとタナトス
群集と本能、暗示、同一視、ほれこみと催眠、自我の構造
意識の構造（意識、前意識、無意識、自我、超自我、エス）、世界観とマルクス主義

4 性の解放をつうじて人間解放へ：ライヒ

フロイトの精神分析から性格分析へ
反ファシズムのための大衆心理学と階級意識論
オルゴン研究所と性革命の理論：正気と狂気の狭間

5 社会の批判理論と権威主義批判：フランクフルト学派（1）

フランクフルト社会研究所：ワイマール民主主義と反ナチズムの理論
ホルクハイマー：『社会研究誌』と『権威と家族』、啓蒙の弁証法
アドルノ：権威主義的パーソナリティ、音楽社会学、否定の弁証法

6 フロイト主義と社会主義：フランクフルト学派（2）

マルクーゼ：初期マルクス、批判理論の急進化、エロスと文明、一次元的人間
フロム：自由からの逃走、正気の世界、希望の革命、新フロイト主義の大成
フロイト主義的社会主義の意義：抑圧的社会主義から解放的社会主義へ

文献

Freud, S., 1900, *Die Traumdeutung*. (高橋義孝訳, 1968, 「夢判断」『フロイト著作集 2』人文書院)

Freud, S., 1901, *Zur Psychopathologie des Alltagslebens*. (池見西次郎・高橋義孝訳, 1970, 「日常生活の精神病理学」『フロイト著作集 4』人文書院)

Freud, S., 1905, *Drei Abhandlungen zu Sexualtheorie*. (懸田克躬・吉村博次訳, 1969, 「性欲論三篇」『フロイト著作集 5』人文書院)

Freud, S., 1912, *Totem und Tabu*. (西田武郎訳, 1969, 「トーテムとタブー」『フロイト著作集 3』人文書院)

Freud, S., 1915, *Zeitgemässes über Krieg und Tod*. (森山公夫訳, 1969, 「戦争と死に関する時評」『フロイト著作集 5』人文書院)

Freud, S., 1916-17, 1933, *Vorlesungen zur Einführung in die Psychoanalyse*. (懸田克躬・高橋義孝訳, 1971, 「精神分析入門」『フロイト著作集 1』人文書院)

Freud, S., 1921, *Massenpsychologie und Ich-Analyse*. (井村恒郎他訳, 1970, 「集団心理学と自我の分析」『フロイト著作集 6』人文書院)

Reich, W., 1933, *Massenpsychologie des Faschismus*, Copenhagen: Sexpol Verlag, 1933, *The Mass Psychology of Fascism*, 3rd ed., Orgone Institute Press, New York, 1946. (平田武靖訳, 1973-75, 『ファシズムの大衆心理』上・下 せりか書房)

Reich, W., 1930, *Die Sexualität im Kulturkampf*, 2. Aufl., 1936. (英訳 *The Sexual Revolution*, New York: Orgone Institute Press, 1945. (中尾ハジメ訳, 1969, 『性と文化の革命』勁草書房)

Reich, W., 1934, *Was ist Klassenbewusstsein*, Verlag für Sexualpolitik. (久野収訳・解題, 1974, 『階級意識とは何か』三一書房)

Horkheimer, M. Hrsg., 1936, *Studien über Autorität und Familie*, Paris: Alcan. (清水多吉編訳)

,1970,『道具的理性批判Ⅱ 権威と家族』に部分訳)

Adorno,T.W., Frenkel-Brunswik, E., Levinson, D.J., Sanford, R.N., 1950, *The Authoritarian Personality*. (田中義久・矢沢修次郎・小林修一訳,1980,『権威主義的パーソナリティ』青木書店)

Horkheimer, M. and Adorno,T.W., 1947, *Dialektik der Aufklärung: philosophische Fragmente*, Querido Verlag, Amsterdam, Fischer Taschenbuch Verlag 1971, 2. Aufl. 1984. (徳永恂訳,1990,『啓蒙の弁証法：哲学的断想』岩波書店)

Marcuse,H., 1941, *Reason and Revolution*. (梶田啓三郎他訳,1966,『理性と革命』岩波書店)

Marcuse,H., 1956, *Eros and Civilization : a philosophical inquiry into Freud*, The Beacon Press. (南博訳,1958,『エロスの文明』紀ノ国屋書店)

Marcuse,H., 1964, *One-Dimensional Man*, The Beacon Press. (生松敬三・三沢謙一訳,1974,『一次元的間』河出書房新社)

Fromm,E., 1941, *Escape from Freedom*, Holt, Rinehart & Winston. (日高六郎訳,1951,『自由からの逃走』創元社)

Fromm,E., 1955, *The Sane Society*. (加藤正明・佐瀬隆夫訳,1958,『正気の社会』社会思想社)

Fromm,E., 1968, *The Revolution of Hope* (作田啓一・佐野哲郎訳,1969,『希望の革命』

XIV 現代社会批判から社会計画論へ

1 資本主義観の修正と政府介入の合理化：ケインズ

人間・社会観の革新：マーシャルから一般理論へ
一般理論の構成：有効需要、所得・投資・貯蓄、消費性向、乗数理論、流動性選好
意義：活動階級、政府介入、非合理性を考慮する人間観、観念の力

2 階級意識論から帝国主義イデオロギーの批判へ：ルカーチ

軌跡：美学、社会学、革命、新ヘーゲル主義、マルクス・レーニン主義
階級意識論：ローザの自発性論を評価、ヘーゲル主義的階級意識論、物象化論
帝国主義イデオロギー批判：生の哲学、新ヘーゲル主義、社会学の批判

3 レーニン主義から先進国革命の理論へ：グラムシ

クローチェからマルクスへ：獄中生活と理論の創造的発展
開かれたマルクス主義、認識の創造性、実践の哲学、有機的知識人
ヘゲモニーと歴史的ブロックの理論：政治だけでなく文化や社会を重視

4 イデオロギー論から知識社会学へ：マンハイム（1）

マージナル・マンとしての宿命と理論形成：現代的総合への志向
イデオロギーとユートピア：イデオロギー概念の変遷と知識人の宿命
知識社会学の創立とアンビヴァレンス：知識の存在被拘束性と認識論の問題

5 大衆社会批判から社会計画論へ：マンハイム（2）

基本的民主化、形式合理性と実質合理性、エリートとマス、知識人の役割
計画と再建：創設／建設と管理／行政とのあいだをつなぐもの
社会的技術、権力の民主化、民主主義的教育の重要性

6 第二次世界大戦直後の西欧社会理論の状況

修正資本主義の不可避性：「先進」資本主義諸国におけるケインズ理論の受容
マルクス・レーニン主義のインパクトと先進国革命の困難性：グラムシの運命
経済計画から経済・社会計画へ：ビヴァレッジ＝マンハイムの政策的漸次的浸透

文献

Marshall, A., 1890, *Principles of Economics*, 8th ed. 1920, 9th (variorum) ed. with annotations by C.W. Guillebaud, 2 vols. 1961, (大塚金之助訳, 1928, 『経済学原理』全4冊、改造社、馬場啓之助訳, 1965-67, 『経済学原理』全4冊、東洋経済新報社)

Keynes, J.M., 1936, *The General Theory of Employment, Interest and Money* (塩野谷九十九訳, 1941, 『雇用・利子および貨幣の一般理論』東洋経済新報社)

Lukács, G., 1923, *Geschichte und Klassenbewusstsein*. (城塚登・古田光訳, 1968, 『歴史と階級意識』ルカーチ著作集9、白水社)

Lukács, G., 1948, *Der junge Hegel*. (生松敬三他訳, 1969, 『若きヘーゲル』ルカーチ著作集10-11, 白水社)

Lukács, G., 1948, *Existentialisme ou Marxisme?* (城塚登・生松敬三訳, 1953, 『実存主義かマルクス主義か』岩波書店)

Lukács, G., 1954, *Die Zerstörung der Vernunft* (暉峻凌三他訳, 1968-69, 『理性の破壊』ルカーチ著作集12-13, 白水社)

Gramsci, A., 1966, *Opere di Antonio Gramsci*, 10 vols., Giulio Einaudi, original ed., 1947-60. (代・藤沢編, 1961-65, 『グラムシ選集』6巻、合同出版)

Mannheim, K., 1929, *Ideologie und Utopie*, Friedrich Cohen, *Ideology and Utopia: an introduction to the sociology of knowledge*, Routledge, 1936 by L. Wirth & E. Shils. (鈴木二郎訳, 1968, 『イデオロギーとユートピア』未来社、高橋徹・徳永恂訳「イデオロギーとユートピア」『世界の名著56 マンハイム／オルテガ』中央公論社)

Mannheim, K., 1935, *Mensch und Gesellschaft im Zeitalter des Umbaus*, rev. ed., *Man and Society in an Age of Reconstruction*, 1940. (福武直訳, 1962, 『変革期における人間と社会』み

すず書房)

Mannheim,K., 1944, *Diagnosis of Our Time*, Oxford Universtiy Press. (高橋徹・青井和夫訳,1954,『現代の診断』みすず書房)

Mannheim,K., 1951, *Freedom, Power and Democratic Planning*, Routedege, ed.by H.Gorth & others. (池田秀男訳,1971,『自由・権力・民主的計画』未来社)

Mannheim,K., 1952, *Essays on the Sociology of Knowledge*. ed.by P.Kecskemeti

Mannheim,K., 1953, *Essays on Sociology and Social Psychology*. ed.by P.Kecskemeti

Mannheim,K., 1956, *Essays on the Sociology and Culture* ed.by E.Mannheim.

Mannheim,K., 1957, *Systematic Sociology : an introduction to the study of sociology*. ed.by J.S.Eros c W.A.C.Stewart

Bevaridge, W. H., 1942, *Social Insurance and Allied Services*. (山田雄三監訳, 1969, 『社会保険および関連サービス』)

XV 資本主義分析と主体性の問題：日本のマルクス主義と近代主義
この章は後回しにします。

XVI 社会主義と民族解放運動の社会理論：社会学復活の背景と展望

1 独裁体制の確立と理論の教条化：スターリン

西欧体験の欠如、理論よりも組織、競争者排除、自己神格化
マルクス・レーニン主義：弁証法的・史的唯物論の教条化
ナチスとの戦い、アメリカに対抗して軍事大国化、衛星国・衛星党づくり

2 スターリン批判と社会学の復活

フルシチョフ秘密報告：内部からの批判、それゆえの限界
社会学の復活：過去の遺産や公認の「弁証法的・史的唯物論」との未対決
『ソ連における社会学』：1960年代、非スターリン化の到達点

3 三民主義から毛沢東主義へ

三民主義から新三民主義へ：孫文
農村的人民主義：毛沢東（1）
実践論・矛盾論から新民主主義論へ：毛沢東（2）

4 中間地帯論からプロレタリア文化大革命へ：革命後の毛沢東

ヘゲモニーのための世界認識：「中間地帯」論へ
社会主義建設と農民のロマン主義：観念論的政策の失敗から「実権派」批判へ
覇権主義と近代的規律の無視：「プロレタリア文化大革命」の実態

5 ペレストロイカと改革開放：改革の具体化におけるソ連と中国の分岐

チェコスロヴァキア民主化「プラハの春」の鎮圧とブレジネフ体制
ペレストロイカの悲劇：社会科学・社会学の停滞、理想主義の先走り
改革解放の現実主義と中国社会学の復活・発展：「市場社会主義」の実証？

6 いくつかの異なった道

非暴力主義から非同盟主義へ：ガンディーとインドのたどった道
アラブ・アフリカの民族解放と社会主義：フランツ・ファノンの投げかけた問題
ラテンアメリカの戦後：輸入代替工業化政策から従属理論へ

文献

Сталин, И.В., 1913, *Марксизм и национальный вопрос* (スターリン全集刊行会訳, 1952, 「マルクス主義と民族問題」『スターリン全集』2、大月書店)

Сталин, И.В., 1924, *Об основах ленинизма* (スターリン全集刊行会訳, 1924, 「レーニン主義の基礎について」『スターリン全集』6、大月書店)

Сталин, И.В., 1926, *Вопросы ленинизма*, 11 изд., 1930 (スターリン全集刊行会訳, 1952, 「レーニン主義の諸問題によせて」『スターリン全集』8、大月書店)

Сталин, И.В., 1952, *Экономические проблемы в СССР* (スターリン全集刊行会訳, 1954, 「ソ連邦における社会主義の経済的諸問題」『スターリン戦後著作集』大月書店)

Хрущёв, Н.С., 1959, Доклад на закрытом заседании XX съезда КПСС: о культе личности его последствиях, Госполитиздат, Москва. (志水速雄訳, 1977, 『フルシチョフ秘密報告「スターリン批判」』、講談社学術文庫)

Социология в СССР, 1965-66, издание в 2 томах. (田中清助訳, 1967-68, 『ソヴェト社会学』3巻、青木書店)

孫文, 1918, 『建国方略』

孫文, 1924, 『三民主義』(安藤彦太郎訳, 1957, 『三民主義』岩波文庫)

毛沢東, 1937, 『実践論』(毛沢東選集翻訳委員会, 1962-66, 『毛沢東選集』1下、新日本出版社、松村一人・竹内実訳, 1957, 『実践論・矛盾論』岩波文庫)

毛沢東, 1937, 『矛盾論』(毛沢東選集翻訳委員会, 1962-66, 『毛沢東選集』1下、新日本出版社、松村一人・竹内実訳, 1957, 『実践論・矛盾論』岩波文庫)

毛沢東, 1938, 『持久戦論』(毛沢東選集翻訳委員会, 1962-66, 『毛沢東選集』2上、新日本出版社)

- 毛沢東,1939,『中国革命と中国共産党』(毛沢東選集翻訳委員会,1962-66,『毛沢東選集』2下、新日本出版社)
- 毛沢東,1940,『新民主主義論』(毛沢東選集翻訳委員会,1962-66,『毛沢東選集』2下、新日本出版社)
- 毛沢東,1945,『聯合政府論』(毛沢東選集翻訳委員会,1962-66,『毛沢東選集』3下、新日本出版社)
- Gorbachev, M., 1987, *Perestroika: new thinking for our country and the world*, Harper & Row. (田中直毅訳, 1987, 『ペレストロイカ』講談社)
- Ganhi, M.K., 1908, *Hindu Swaraji, or Indian Home Rule*. (高田種雄訳『印度自治』春秋社、世界大思想全集)
- Gandhi, M.K., 1922, *Neethi Dharma, or Ethical Religion*. (高田種雄訳『倫理宗教』春秋社、世界大思想全集)
- Gandhi, M.K., 1927-29, *The Story of My Experiments with Truth*. (金井孝一郎訳, 1942, 『ガンジー自叙伝』鄰反社)
- Gandhi, M.K., 1960, *My Non-Violence*, Navajivan Publishing House, Ahmedabad. (森本達雄訳, 1970-71, 『私の非暴力』みすず書房)**
- Abdel-Malek, Anouar, 1972, *La dialectique sociale*, Ed. de Seuil. (熊田亨訳, 1977, 『社会の弁証法』岩波書店、熊田亨訳, 1977, 『民族と革命』岩波書店)
- Amin, S., 1970, *L'accumulation à l'échelle mondiale*, Editions Anthropos. (野口祐他訳, 1979, 『世界資本蓄積論』拓殖書房、野口・原田訳, 1979, 『周辺資本主義構成体論』拓殖書房、原田金一郎訳, 1981, 『中心・周辺経済関係論』拓殖書房)
- Fanon, F., 1952, *Peau noire, masques blancs*, Editoins du Seuil, 1965. (海老坂武・加藤晴久訳, 1970, 『黒い皮膚・白い仮面』著作集1、みすず書房)**
- Fanon, F., 1959, *L'an V de la révolution Algérienne*, Maspero, éd. rév., *La sociologie d'une révolution*, 1966. (宮ヶ谷徳三・花輪莞爾・海老坂武訳, 1984, 『革命の社会学』著作集2、みすず書房)
- Fanon, F., 1961, *Les damnés de la terre*, Maspero. (鈴木道彦・浦野衣子訳, 1969, 『地に呪われた者』著作集3、みすず書房, 1996, みすずライブラリー)
- Fanon, F., 1961, *Pour la révolution Africaine*, Maspero. (北山晴一訳, 1969, 『アフリカ革命に向けて』著作集4、みすず書房)
- Mills, C.W., 1960, *Listen, Yankee: the revolution in Cuba*, McGraw-Hill. (鶴見俊輔訳, 1961, 『キューバの声』みすず書房)**
- Che Guevara, E. (選集刊行会編集, 1968-69, 『ゲバラ選集』青木書店)

XVII 行為と社会体系の一般理論

1 1930年代以降のアメリカの状況

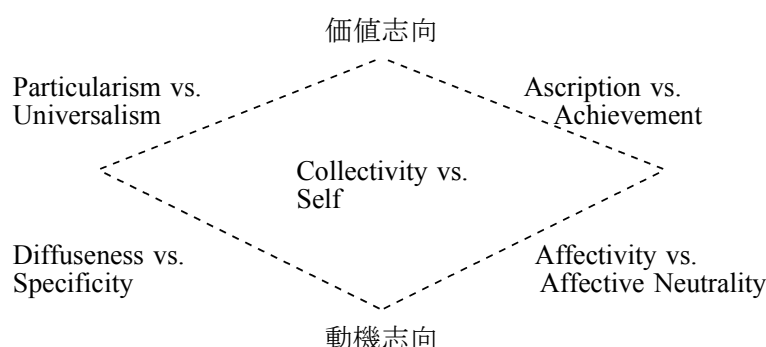
大恐慌の経験：楽観的近代主義の存立基盤が失われる、戦争・福祉国家への道
シカゴ学派的経験主義の普及と社会調査の流行：粗野な経験主義の危険
中西部（A J S）から北東部（A S R）へ：社会学の第三世代の登場

2 社会的行為の構造：パーソンズ（1）

西欧社会理論との格闘：マーシャル、パレート、デュルケム、ウェーバー
経済学の純粋合理主義を批判、非合理的行為、システム、文化的統合
行為、主義、目的・手段図式、動機と価値、意図準拠枠としての行為準拠枠

3 社会体系の一般理論から位相循環論へ：パーソンズ（2）

型相変数、社会体系・人格体系・文化体系、社会化と社会統制、普遍主義的業績主義



位相循環とメディア：適応・目標達成・統合・潜在化、富・権力・影響力・価値関与
比較社会論：個人と社会との和解から文化的共同体の理論へ

4 新しい社会進化論：パーソンズ（3）

進化的普遍性：宗教、言語的意思疎通、社会組織、技術
社会共同体の発展：原始社会→古代社会→「歴史的」中間帝国→2つの苗床社会
社会共同体としてのアメリカと新しい対抗勢力：機能主義的進化理論

5 いくつかの異なった道

知識社会学、マスコミ研究、中範囲の理論：マートン
闘争や葛藤も視野に収める交換理論：ホマンズ
アメリカの大衆社会の明暗をめぐる諸理論：リースマンとミルズ

6 1960年代アメリカの到達点

パーソンズの総合の意義と限界：新しいエートスとその自然的裏付けの欠如
世界社会のモデルとしてのアメリカと「世界の警察」としてのアメリカ
ミルズ、マルクーゼ、ガルブレイスの抗議：公民権運動から学生反乱へ

文献

- Parsons, T., 1937, *The Structure of Social Action : a study in social theory*. (稲上毅・厚東洋
輔訳, 1974-89, 『社会的行為の構造』 5冊、木鐸社)
Parsons, T., 1951, *The Social System*, Free Press. (佐藤勉訳, 1974, 『社会体系論』 青木書店)
Parsons, T. & Shils, E. A., eds., 1951, *Toward a General Theory of Action*. (永井道雄他訳
, 1960, 『行為の総合理論をめざして』 日本評論社)
Parsons, T., & Smelser, N. J., 1956, *Economy and Society : a study in the integraion of
economic and social theory*. (富永健一訳, 1958-59, 『経済と社会』 1・2、岩波書店)
Parsons, T., & Bales, R., 1956, *Family : socialization and interaction process*, New York. (橋
爪貞雄他訳, 1970-72, 『核家族と子どもの社会化』 上・下、黎明書房)
Parsons, T., 1964, *Social Structure and Personality*, New York : Free Press. (丹下隆一他訳

- ,1985,『社会構造とパーソナリティ』新泉社)
- Parsons, T., 1966, *Societies : Evolutionary and Comparative Perspectives*, Prentice-Hall (矢沢修次郎訳,1971,『社会類型：進化と比較』至誠堂)
- Parsons, T., 1969, *Politics and Social Structure*, New York : Free Press. (新明正道監訳,1973-1974,『政治と社会構造』2冊、誠信書房)
- Parsons, T., 1969, *The System of Modern Societies*, Prentice-Hall. (井門富士夫訳,1977,『近代社会の体系』至誠堂)
- Merton, R. K., 1946, *Mass Persuasion: the social psychology of a war bond drive*, Harper. (細井道夫訳,1970,『大衆説得：マス・コミュニケーションの社会学』桜楓社)
- Merton, R. K., 1949, *Social Theory and Social Structure*, Free Press, rev. ed. 1957, enlarged ed. 1968 (森東吾他訳,1961,『社会理論と社会構造』みすず書房、森東吾他訳,1969,『社会理論と機能分析』青木書店、同書の一部と他の論文を含む)
- Merton, R. K., 1977, *The Sociology of Science: an episodic memoir*, Southern Illinois University Press, 1979. (成定薫訳,1983,『科学社会学の歩み：エピソードで綴る回想録』サイエンス社)
- Riesman, D., 1950, *The Lonely Crowd : a study of changing American character*, with N. Glazer & D. Denney, Yale University Press, abridged ed. with a new foreword, 1961 (加藤秀俊訳,1964,『孤独な群衆』みすず書房)
- Mills, C. W., 1951, *White Collar : the American middle classes*, Oxford University Press (杉政孝訳,1957,『ホワイト・カラー—中流階級の生活探求』創元社)
- Mills, C. W., & Gerth, H. H., 1953, *Character and Social Structure : the psychology of social institutions*, Harcourt, Brace & World. (古城利明・杉森創吉訳,1970,『性格と社会構造』青木書店)
- Mills, C. W., 1956, *The Power Elite*, Oxford University Press. (鵜飼信成・綿貫譲治訳,1958,『パワー・エリート』上下、東京大学出版会)
- Smith, C. W., 1979, *A Critique of Sociological Reasoning*, Basil Blackwell. (庄司興吉・武川正吾訳,1984,『社会学的理性批判』新曜社)

第四部 構造と主体

政治の世界における主意主義の横行にたいして、主意主義を科学のパラダイムにしようとする動き。

しかし、それが先進大国の現状擁護につながるとして、澎湃たる社会運動の批判。

批判的急進的社会(科)学運動にたいして、反動として構造と科学を強調する動き。

パラダイム転換をめぐる論議のなかから、現象学と構造主義の批判をふまえて、構造と主体のバランスを取ろうとする新しい社会研究や社会理論が現れる。

さらに、西欧的、西洋的視座そのものの根底的批判へ。

XVIII 批判的急進的社会科学運動

1 1960年代アメリカの社会運動

戦後世界の社会変革のアメリカ内部への反射：「内なる第三世界」を介して

公民権運動とヴェトナム反戦運動：内なる正義と外なる正義

大学闘争とその国際的波及：知の存立構造の問いなおし

2 ラディカル社会科学運動のなかのラディカル社会学運動

運動の展開過程：ラディカル社会学者同盟（URS）の形成

『社会学の社会学』と『西洋社会学の危機』：主観性の重視と機能主義批判

マルクス主義と現象学的方法の導入：ラディカル社会学の実態

フラックス Flacks, Richard.

ライト Wright, Eric Olin

ブラウオイ Burawoy, Michael

3 ラディカル社会学運動の具体的成果

不平等研究の集約：ジェンクスとガンス

国家の財政的危機と教育の差別的機能：オコーナーとボウルズ＝ギンタス、

近代世界システムと国内植民地主義の批判：ウォーラスティンとヘクター

Wallerstein, I., 1961, *Africa, the politics of independence : an interpretation of modern African history*, Vintage Books. (A Vintage original ; V-206)

Wallerstein, I., 1967, *Africa : the politics of unity : an analysis of a contemporary social movement*, Random House.

Wallerstein, I., 1968, *Africa: the politics of unity : an analysis of a contemporary social movement*, Pall Mall.

Wallerstein, I., 1969, *University in turmoil : the politics of change*, [1st ed.] Atheneum. (公文俊平訳, 1969, 『大学闘争の戦略と戦術』日本評論社)

Wallerstein and Paul Starr, eds., 1971, *The liberal university under attack*, Random House, (The university crisis reader; vol. 1), Vintage Books, a division of Random House, (A Vintage book ; V-454)

Wallerstein, I., 1986, *Africa and the modern world*, Africa World Press.

4 フランスの社会運動と新しい社会学の勃興

戦後フランス社会学の状況：マルクス主義、現象学、実存主義

60年代社会運動のインパクト：モランからブルデューまで

行為主義と社会運動の社会学：アラン・トゥレーヌ

5 ドイツの社会運動と批判社会学の展開

戦後ドイツ社会学の状況：実証主義と批判社会学

60年代社会運動の状況：SDSの形成と批判社会学の応用

フランクフルト学派第二世代の展開：ハバマスを中心に

6 米欧の仲介者としてのイギリスと新しい社会学

戦後イギリス社会学の状況：ボットモアの役割

アメリカ社会学の影響と大陸社会学の吸収：接点としてのマルクスとウェーバー

新ウェーバー主義による体系化：ギデンスを中心に

文献

- Sutherland, E., 1966, *Letters from Mississippi*. (木内信敬訳, 1969, 『閉ざされた社会 : アメリカ深南部からの報告』サイマル出版会)
- Cohen, M. & Hale, D., eds., 1966, *The New Student Left*, Beacon Press, 1967.
- Keniston, K., 1968, *Young Radicals: notes on the committed youth*, Harcourt, Brace & World. (庄司興吉・庄司洋子訳, 1973, 『ヤング・ラディカルズ : 青年と歴史』みすず書房)
- Kunen, J. S., 1968, *The Strawberry Statement*. (青木日出夫訳, 1970, 『いちご白書 : ある大学革命家のノート』角川書店)
- Anderson, W., 1969, *The Age of Protest*, Goodyear Publishing Co.
- 庄司興吉, 1977, 『現代化と現代社会の理論』東京大学出版会。
- 高橋徹, 1973, 『ラディカル』社会学運動』『思想』587, 1973.3.
- Friedrichs, R. W., 1970, *A Sociology of Sociology*, with a foreword by N. Birnbaum, Collier-Macmillan
- Gouldner, A. W., 1971, *The Coming Crisis of Western Sociology*, Heinemann (岡田直之他訳, 1974-75, 『社会学の再生を求めて』新曜社)
- Colfax, J. D. & Roach, J. L., eds., 1971, *Radical Sociology*, Basic Books
- Wright, E. O., 1978, *Class, crisis, and the state*, NLB, 1978, Verso, 1985, Verso, 1997 (Verso classics ; 16) (江川潤訳, 1986, 『階級・危機・国家』中央大学出版部、中央大学現代政治学双書 ; 8)
- Jencks, C. et al., 1972, *Inequality: a reassessment of the effect of family and schooling in America*, Basic Books (橋爪貞雄・高木正太郎訳, 1978, 『不平等』黎明書房)
- Gans, H., 1973, *More Equality: how the United States can reduce inequalities of income, wealth and political power*, Random House
- Bowles, S. & Gintis, H., 1976, *Schooling in Capitalist America: educational reform and the contradictions of economic life*, Basic Books (宇沢弘文訳, 1986, 『アメリカ資本主義と学校教育 : 教育改革と経済制度の矛盾』1, 2、岩波書店, 岩波現代選書 ; 122, 123)
- O'Connor, J., 1973, *The Fiscal Crisis of the State*, St. Martin's Press. (池上惇・横尾邦雄監訳, 1981, 『現代国家の財政危機』御茶の水書房)
- Hechter, M., 1975, *Internal Colonialism -- the Celtic fringe in british national Development*, University of California Press.
- Touraine, A., 1965, *Sociologie d'action*, Éditions de Seuil. (大久保敏彦他訳, 1970, 『行動の社会学』合同出版)
- Touraine, A., 1968, *Le mouvement du mai, ou le communisme utopique*, Seuil (寿里茂・西川潤訳, 1970, 『現代の社会闘争 : 五月革命の社会学的展望』日本評論社)
- Touraine, A., 1969, *La société post-industrielle*, Gonthier (寿里茂・西川潤訳, 1970, 『脱工業化の社会』河出書房新社)
- Touraine, A., 1973, *Vie et mort du Chili populaire*, Editions de Seuil. (真木芳徳訳, 1976, 『人民チリの崩壊 : 1973年7~9月の社会学的日記』筑摩書房)
- Touraine, A., 1976, *Les Sociétés dépendantes: essais sur l'Amérique Latine*, Éditions J. Duculot. (佐藤幸男, 1989, 『断裂社会 : 第三世界の新しい民衆運動』新評論)
- Touraine, A., 1974, *Pour la sociologie*, Éditions de Seuil. (梶田孝道訳, 1978, 『社会学へのイメージ』新泉社)
- Touraine, A., 1978, *La voix et le regard*, Seuil (梶田孝道訳, 1984, 『声とまなざし : 社会運動の社会学』新泉社)
- Touraine, A. et al., 1980, *La Prophétie anti-nucléaire*, Éditions de Seuil. (伊藤るり訳, 1984, 『反原子力運動の社会学 : 未来を予言する人々』新泉社)
- Touraine, A. et al., 1981, *Le pays contre l'État: luttes occitanes*, Éditions de Seuil. (宮島喬訳, 1984, 『現代国家と地域闘争 : フランスとオクシタニー』新泉社)
- Habermas, J., 1962, *Strukturwandel der Öffentlichkeit: Untersuchungen zu einer Kategorie der bürgerlichen Gesellschaft*, Hermann Luchterhand, Berlin, 1990, Suhrkamp. (細谷貞雄訳, 1980, 『公共性の構造転換』未来社、第二版 (細谷貞雄・山田正行訳), 1994,)
- Habermas, J., 1973, *Legitimationsprobleme in Spätkapitalismus*, Suhrkamp (細谷貞雄訳, 1979, 『晚期資本主義における正統化の諸問題』岩波書店)
- Habermas, J., 1981, *Theorie des kommunikativen Handelns*, 2 Bde., Suhrkamp (河上倫逸他訳, 1985-87, 『コミュニケーション的行為の理論』全3巻、未来社)
- Habermas, J., 1983, *Moralbewußtsein und Kommunikatives Handeln*, Ffm. (三島憲一他訳, 1991, 『道徳意識とコミュニケーション行為』岩波書店)
- Habermas, J., 1990, *Die Nachholende Revolution*, Ffm. (三島憲一他訳, 1992, 『遅ればせの革命』岩波書店)
- Bottomore, T. B., 1965, *Classes in Modern society*, George Allen & Unwin
- Giddens, A., 1979, *Central Problems in Social Theory*, University of California Press (友枝敏雄他訳, 1989, 『社会理論の最前線』ハーベスト社)

XIX 生成する社会とシステムの内閉

1 近代的知の存立構造への問い：エドムント・フッサール

西欧的知の仮借なき再吟味

意識の志向性から現象学的還元へ：『論理学研究』から『イデーン』へ

間主観性から生活世界へ：『デカルト的省察』から『ヨーロッパ諸学の危機』へ

2 解釈学的構成、実存的投企、身体の両義性：ハイデッガー、サルトル、メルローポンティ

現存在の不安と憂慮をつうじて歴史の解釈学的構成へ：ハイデッガー『存在と時間』
実存の吐き気、投企、参加、そして実践的総体：サルトル『存在と無』から『弁証法的理性の批判』へ

行動の構造、身体の両義性、弁証法の冒険：メルローポンティ身体論の重要性

3 現象学的社会学と宗教の再発見：シュッツ、ルックマン、バーガー

ウェーバー批判からパーソンズ批判へ：現象学による社会学の転換

多元的現実とレリヴァンス：アルフレート・シュッツの到達点

知識社会学の近代批判から宗教の再発見へ：ルックマンとバーガー

4 象徴的相互行為主義、エスノメソドロジー、フレーム分析：ブルーマー、ガーフィンケル、ゴフマン

社会学批判後のシカゴ学派再興：ブルーマーの象徴的相互行為主義

多元社会の陪審制からみた社会：ガーフィンケルのエスノメソドロジー

演技としての行為・演劇としての社会：ゴフマンのフレーム分析

5 構造・機能主義からシステム理論の徹底へ

パーソンズ以後の構造・機能主義：システムの維持から変動・再形成へ

情報革命の普遍化と自己組織性の理論：サイバネティクスからシナジェティクスへ

現象学的視点の導入によるシステム理論の組み替え：生活世界とシステム

6 コミュニケーション・システムの内閉性：ニクラス・ルーマン

複雑性の縮減と自己準拠：ダブル・コンティンジェンシーとコミュニケーション

オートポイエーシスとシステムの内閉：環境および相互浸透あるいはカップリング

構造と時間、矛盾とコンフリクト、および社会・相互行為・世界社会

文献

Husserl, E., 1900-1901, *Logische Untersuchungen*, 2 Bde, 1913-21, 2. Aufl. 3 Bde.. (立松弘孝訳, 1968-, 『論理学研究』 みすず書房)

Husserl, E., 1913, *Ideen zu einer reinen Phanomenologie und phanomenologische Philosophie* (池上鎌三訳, 1939-41, 『純粹現象学及び現象学的哲学考察』 岩波文庫)

Husserl, E., 1931, *Meditations cartesiennes*, 1950, *Cartesianische Meditationen*, Husserliana 1. Bd. (山本万二郎訳, 1954, 『現象学序説：デカルト的省察録』 創文社)

Husserl, E., 1936, *Die Krisis der europäischen Wissenschaften und die transzendente Phanomenologie*, 6. Bd., 1954 (細谷恒夫訳, 1974, 『ヨーロッパの学問の危機と先験的現象学』 中央公論社)

Heidegger, M., 1927, *Sein und Zeit*, 9. Aufl., 1961 (原佑・渡辺二郎訳, 1971, 『存在と時間』 中央公論社、世界の名著、辻村公一・ブフナー訳, 1997, 『有と時(うととき)』 創文社, 708pp.)

Sartre, J.P., 1946, *L'Existentialisme est un humanisme*, Editions Nagel. (伊吹武彦他訳, 1955, 増補新装版 1996, 『実存主義とは何か』 人文書院)

Sartre, J.P., 1960, 'Question de méthode', *Critique de la raison dialectique*, tome 1, Gallimard. (平井啓之訳 1962 『方法の問題』 人文書院)

Sartre, J.P., 1960, *Critique de la raison dialectique, tome 1: théorie des ensembles pratiques*, Gallimard, (平井啓之訳, 1962-65, 『弁証法的理性批判、第1巻 実践的総体の理論』 人文書院)

Merleau-Ponty, M., 1942, *La structure du comportement*, 1949, P.U.F., 1972. (滝浦静雄・

木田元訳, 1964, 『行動の構造』 みすず書房)

Merleau-Ponty, M., 1945, *La phénoménologie de la perception*, Gallimard. (竹内芳郎・小木貞孝・木田元・宮本忠雄訳, 1967-74, 『知覚の現象学』 1, 2, みすず書房)

Merleau-Ponty, M., 1955, *Les aventures de la dialectique*, Gallimard. (滝浦静雄 [ほか] 共訳, 1972, 『弁証法の冒険』 みすず書房)

Schutz, A., 1932, *Der sinnhafte Aufbau der sozialen Welt: eine Einleitung in die verstehende Soziologie*. (佐藤嘉一訳, 1982, 『社会的世界の意味構成：ウェーバー社会学の現象学的分析』)

Schutz, A., 1970, *Alfred Schutz on Phenomenology nad Social Relations, Selected Writings*, ed. by H. R. Wagner. (森川真規雄・浜日出夫訳, 1980, 『現象学的社会学』)

Schutz, A., 1977, *Zur Theorie sozialen Handelns: Ein Briefwechse*, ed. by W. M. Sprondel. (佐藤嘉一訳, 1980, 『社会理論の構成：シュッツ・パーソンズ往復書簡』)

Luckmann, T., 1976, *The Invisible Religion*. (赤池憲昭・J.スィングドロー訳, 1976, 『見えない宗教』)

Berger, P. & Luckmann, T., 1966, *The Socail Construction of Reality*, (山口節郎訳, 1977, 『日常世界の構成』 新曜社)

Berger, P., 1967, *The Sacred Canopy: elements of a sociological theory of religion*. (藺田稔訳, 1979, 『聖なる天蓋』 新曜社)

Berger, P., Berger, B. & Kellner, H., 1973, *The Homeless Mind*. (高山真知子・馬場伸也他訳, 1977, 『故郷喪失者たち』 新曜社)

Blumer, H., 1969, *Symbolic Interactionism: perspective and method*, Prentice-Hall. (後藤将之訳, 1991, 『シンボリック相互作用論』 勁草書房)

Blumer, H., 1990, *Industrialization as an Agent of Social Change*, Walter de Gruyter. (片桐雅隆他訳, 1995, 『産業化論再考』 勁草書房)

Garfinkel, H., 1967, *Studies in Ethnomethodology*, Prentice-Hall.

Goffman, E., 1959, *The Presentation of Self in Everyday Life*. (石黒毅訳, 1974, 『行為と演技』)

Goffman, E., 1963, *Behavior in Public Places: notes on the social organization of gatherings*. (丸木啓祐・本名信行訳, 1980, 『集まりの構造』)

Goffman, E., 1974, *Frame Analysis*.

Luhmann, N., 1968, *Zweckbegriff und Systemrationalität: Über die Funktion von Zwecken in sozialen Systemen*, Mohr. (馬場・上村訳, 1990, 『目的概念とシステム合理性』 勁草書房)。

Luhmann, N., 1975, *Macht*, Ferdinand Enke Verlag. (長岡克行訳, 1986, 『権力』 勁草書房)

Luhmann, N., 1980-89, *Gesellschaftstruktur und Semantik*, 3 Bde. (佐藤勉訳, 1985, 『社会システム理論の視座』 部分訳、木鐸社)。

Luhmann, N., 1984, *Soziale Systeme: Grundriß einer allgemeinen Theorie*, Suhrkamp. (佐藤勉監訳, 1993-95, 『社会システム理論』 恒星社厚生閣)。

XX 普遍的構造から普遍的流動へ

1 文化相対主義から人類の普遍性へ

クロード・レヴィーストローヌ：西欧的知性、原アメリカ、言語学
『親族の構造』から『悲しき熱帯』へ：普遍的社會構造と西欧中心主義批判
神話学と構造人類学の集大成：言語構造に隠された社會構造の解明

2 構造主義的マルクス理解と重層的決定の理論：アルチュセール学派

人間主義的マルクス主義の批判から重層的決定の理論へ：アルチュセール（1）
国家のイデオロギー装置とプラティークの理論：アルチュセール（2）
現代資本主義分析と国家・階級論への応用：プーランツァス

3 精神分析・文芸評論への応用と解釈学からの批判：ラカン、バルト、リクール

精神分析の再解釈と自我形成過程論：ラカン
構造主義からレトリック研究・物語分析をへて断章化へ：バルト
解釈学的構造主義批判と生きた現実への積分：リクール

4 知の構造から人間身体の主体化へ：ミシェル・フーコー

知の考古学をつうじての近代批判：フーコー（1）
隔離と監視の構造としての近代：フーコー（2）
身体技術＝不可視の権力から自己のテクノロジーへ（3）

5 普遍経済学から消費社会論へ：バタイユからボードリアールへ

近代西洋の超克と社会学：社会学研究会の意義
消費・蕩尽の概念と普遍経済学の試み：バタイユ
消費社会論からシミュラクル論へ：ボードリアール

6 普遍的流動としての社会と近代：ドゥルーズ&ガタリ以後

一義性・運動体・永劫回帰としての社会時空：ドゥルーズ&ガタリ（1）
普遍的流動としての資本主義、戦争、国家：ドゥルーズ&ガタリ（2）
ネオノマドとしての現代市民とアイデンティティ：メルッチ

文献

Lévi-Strauss, C., 1947, *Les structures élémentaires de la parenté*, Mouton, 2. éd. 1967（馬淵東一・田島節夫監訳, 1978, 『親族の基本構造』 番町書房）

Lévi-Strauss, C., 1955, *Tristes tropiques*, Plon.（川田順造訳, 197?, 『悲しき熱帯』 中央公論社、室淳介訳, 1985, 『悲しき南回帰線』 講談社、学術文庫）

Lévi-Strauss, C., 1958, *Anthropologie structurale*, Plon（荒川幾男他訳, 1972, 『構造人類学』 みすず書房）

Lévi-Strauss, C., 1962, *La pensée sauvage*, Plon.（大橋保夫訳, 1976, 『野生の思考』 みすず書房）

Althusser, L., 1965, *Pour Marx*, 2 tomes, François Maspero, 1996 *La Découverte*（河野健二・田村俣訳, 1968, 『甦えるマルクス』 I II、人文書院、河野健二・田村俣・西川長夫訳, 1994, 『マルクスのために』 平凡社ライブラリー）

Althusser, L. & Badiou, 1965, *Lire le Capital*, Maspero, 1968 rev. éd., 1996 P.U.F.（権寧・神戸仁彦訳, 1974, 『資本論を読む』 合同出版、今村仁司訳, 1996, 『資本論を読む』 上中下、筑摩学芸文庫）

Poulantzas, N., 1968, *Pouvoir politique et classes sociales de l'État capitaliste*, Maspero.（田口富久治・山岸紘一訳, 1978-81, 『資本主義国家の構造：政治権力と社会階級』 I II、未来社）。

Lacan, J., 1966, *Écrits*.（宮本忠雄・佐々木孝次他訳, 1972-81, 『エクリ』 全3巻、）。
Barthes, R., 1965, *Le degré zéro de l'écriture, suivi de Éléments de sémiologie*.（渡辺淳・沢田昂一訳, 1971, 『零度のエクリチュール／付・記号学の原理』）。

Barthes, R., 1965, *Système de la mode*.（佐藤信夫訳, 1972, 『モードの体系』）。

Barthes, R., 1970, *L'empire des signes*.（宗左近訳, 1974, 『表徴の帝国』 新潮社）。

Ricœur, P., 1965, *De L'interprétation: essai sur Freud*, (久米博訳,1982,『フロイトを読む』)
Ricœur, P., 1975, *La métaphor vive*, (久米博訳,1980,『生きた隠喩』)

Foucault, M., 1966, *Les mots et les choses: une archéologie des sciences humaines*, Gallimard
(渡辺一民・佐々木明訳,1974,『言葉と物：人文科学の考古学』新潮社)

Foucault, M., 1972, *L'histoire de la folie* (田村俣訳,1975,『狂気の歴史』新潮社)

Foucault, M., 1975, *Surveiller et punir: naissance de la prison*, Gallimard (田村俣訳,1977,『監獄の誕生：監視と処罰』新潮社)

Foucault, M., 1976, *Histoire de la sexualité: 1 Le volonté de savoir, 2 L'usage des plaisirs*, 1984, 3 *Le souci de soi*, 1986, Gallimard (渡辺守章訳,1986,『性の歴史 I 知への意志』、田村俣訳,1986,『性の歴史 II 快楽の活用』、田村俣訳,1987,『性の歴史 III 自己への配慮』新潮社)

Caillois, R., 1932, *L'homme et le sacré*, 2 éd., 1950 (小刈米見訳,1969,『人間と聖なるもの』)

Caillois, R., 1958, *Les jeux et les hommes*, éd. rev., 1967 (清水幾太郎・霧生和夫訳,1970,『遊びと人間』多田道太郎・塚崎幹夫訳,1971)

Bataille, G., 1949, *La part maudite*. (生田耕作訳,1973,『呪われた部分』二見書房)

Bataille, G., 1957, *L'érotisme*. (澁澤龍彦訳,1973,『エロティシズム』二見書房)

Baudrillard, J., 1970, *La Société de Consommation, ses mythes, ses structures* (今村仁司・塚原史訳,1979,『消費社会の神話と構造』紀ノ国屋書店)。

Baudrillard, J., 1981, *Simulacres et simulations* (竹原あき子訳,1982,『シミュレーションとシミュラクル』法政大学出版局)。

Deleuze, G., 1968, *Difference et répétition*. Paris : Presses universitaires de France (財津理訳, 1992,『差異と反復』東京：河出書房新社)

Deleuze, G., 1981, *Spinoza, Philosophie pratique*, Paris : Editions de Minuit. (鈴木雅大訳, 1994,『スピノザ：実践の哲学』東京：平凡社)

Deleuze, G. & Felix Guattari, 1972, *L'anti-OEdipe*, Paris : Editions de minuit. (市倉宏祐訳, 1986,『アンチ・オイディプス』東京：河出書房新社)

Deleuze, G. & Felix Guattari, 1976, *Rhizome : introduction*, Paris : Editions de Minuit. (豊崎光一翻訳・編集, 1977,『リゾーム』東京：朝日出版社)

Deleuze, G. & Felix Guattari, 1980, *Mille Plateaux: capitalisme et schizophrénie*, Paris : Editions de Minuit. (宇野邦一・田中敏彦・豊崎光一・宮林寛・守中高明訳, 1994,『千のプラトー：資本主義と分裂症』河出書房新社)

Melucci, A., 1989, *Nomads of the present : social movements and individual needs in contemporary society*, London : Hutchinson Radius. (山之内靖, 貴堂嘉之, 宮崎かすみ訳, 1997,『現在に生きる遊牧民(ノマド)：新しい公共空間の創出に向けて』東京：岩波書店)

XXI 周縁からの批判による脱構築

1 社会問題からの理論展開

社会理論の主要舞台は中枢＝ヨーロッパに戻ったのか？
米ソ両超大国の対決が周縁化したもの：平和、貧困、環境、身体
あえて周縁に立って理論の基底を問い直す：元祖「市井の哲人」の学

2 構造的暴力の理論と平和研究：ガルトゥングを中心に

数学的な理論と方法から出発：『社会科学の理論と方法』
構造的暴力と帝国主義の構造理論：冷戦的現実との対決と平和研究
非暴力と東洋思想に学ぶ平和恒久化の構想：平和的手段による平和創造

3 従属理論から世界システム論へ：フランク、アミン、ウォーラステイン

批判的急進的社会科学の1つの母体としての従属理論：フランクの展開
不等価交換論と世界資本蓄積論：アブデル＝マレクからアミンへ
資本主義世界経済と国家間抗争の世界システム：ウォーラステインの功績

4 新生態学パラダイムからエコロジー的理性批判へ：環境社会学の深化

新生態パラダイムの提起：カットンとダンラップ
リスク社会論から世界リスク社会論へ：ウルリッヒ・ベック
エコロジー的理性批判から場所学習の社会運動へ：クラウド・エーダー

5 身体への回帰と構築性の暴露：フェミニズムからポストコロニアリズムへ

第2次フェミニズムとセクシズム批判の確立：フリーダンとミレットの役割
ラディカル・フェミニズムからマルクス主義フェミニズムへ：家父長制と資本制
文化主義的新保守主義批判のグローバル波及：カルチュラル・スタディーズからポスト
コロニアリズムへ

6 構造・主体主義の社会理論へ

現象学および構造主義の乗り越えとしての脱構築：ジャック・デリダ
脱構築のポストコロニアルな応用：スピヴァクと「サバルタンの語り」
構造・主体主義の足場：ポストコロニアルな地球市民の脱構築

文献

- Galtung, J., 1967, *Theory and methods of social research*, London : George Allen & Unwin.
Galtung, 1975, *Peace : research, education, action*, Copenhagen : C. Ejlers.
Galtung, J., 1978, *Peace and social structure*, Copenhagen : Ejlers.
Galtung, J. , 1984 *There are alternatives! : four roads to peace and security*, Nottingham, England : Spokesman. (高柳先男・塩谷保訳, 1989, 『平和への新思考』勁草書房)
Galtung, J. (高柳先男・塩屋保・宇田川史子訳), 1989, 『90年代日本への提言：平和学の見地から』中央大学出版部。
Galtung, J. (高柳先男・塩屋保・酒井由美子訳), 1992, 『構造的暴力と平和』中央大学出版部。

Prebish, R., 1964, *Toward a New Trade Policy for Development: report by the Secretary General of the UN conference on trade and development* (外務省訳, 1964, 『新しい貿易政策を求めて』プレビッシュ報告、国際日本協会)

Frank, A.G., 1978, *Dependent Accumulation and Underdevelopment* (吾郷健二訳, 1980, 『従属的蓄積と低開発』岩波書店)

Dos Santos, T., 1978, *Imperialismo y dependencia* (青木芳夫・辻豊治・原田金一郎訳, 1983, 『帝国主義と従属』第三書館)

Amin, S., 1970, *L'Accumulation à l'échelle mondiale*, Editions Anthropos. (野口祐他訳, 1979, 『世界資本蓄積論』柘植書房; 野口祐・原田金一郎訳, 1979, 『周辺資本主義構成体論』柘植書房; 原田金一郎訳, 1981, 『中心＝周辺経済関係論』柘植書房)。

Wallerstein, I., 1974, *The Modern World System I: capitalist agriculture and the origins of the European world-economy in the sixteenth century*, Academic Press (川北稔訳, 1981, 『近代世界システム：農業資本主義と「ヨーロッパ世界経済」の成立』岩波書店)

Wallerstein, I., 1980, *The Modern World System II: mercantilism and the consolidation of the European world-economy, 1600-1750*, The Academic Press (川北稔訳, 1993, 『近代世界システム 1600～1750：重商主義と「ヨーロッパ世界経済」の凝集』名古屋：名古屋大学出版会)。

Wallerstein, I., 1984, *The Politics of the World-Economy*, Cambridge: Cambridge University Press (田中治男, 伊豫谷登士翁, 内藤俊雄訳, 1991, 『世界経済の政治学：国家・運動・文明』東京：同文館出版)。

Wallerstein, I., 1989, *The Modern World System III: the second era of great expansion of capitalist world-economy, 1730-1840s*, The Academic Press.

Catton, W.R. & Dunlap, R.E., 1978, "Environmental Sociology: a new paradigm," *The American Sociologist*, 13 Feb.

Catton, W.R. & Dunlap, R.E., 1980, "A New Ecological Paradigm for Post-Exuberant Society," *The American Behaviorist Scientist* 24 Sept./Oct.

Beck, U., 1986, *Risikogesellschaft auf dem Weg in eine andere Moderne*, Frankfurt am Main: Suhrkamp, (東廉監訳, 1988, 『危険社会』東京：二期出版)

Beck, U., 1999, *World risk society*, Polity Press.

Eder, K., 1988, *Die Vergesellschaftung der Natur: Studien zur sozialen Evolution der praktischen Vernunft*, Frankfurt am Main: Suhrkamp. (寿福真美訳, 1992, 『自然の社会化: エコロジーの理性批判』法政大学出版局)

Eder, K., 2000, *Kulturelle Identität zwischen Tradition und Utopie: soziale Bewegungen als Ort gesellschaftlicher Lernprozesse*, Campus Verl. (Europäische Bibliothek interkultureller Studien; Bd. 6)

Freedan, B., 1963, *The Feminine Mystique*. (三浦富美子訳, 1965, 『新しい女性の創造』)

Millett, K., 1970, *Sexual Politics*, (藤枝濤子・横山貞子訳, 1985, 『性の政治学』)

Sokoloff, N.J., 1980, *Between Money and Love: the dialectics of women's home and market work*. (江原由美子他訳, 1987, 『お金と愛情の間』)

Freedan, B., 1981, *The Second Stage*. (下村満子訳, 1984, 『セカンド・ステージ』)

Stanley, L. & Wise, S., 1982, *Breaking Out: feminist consciousness and feminist research*. (矢野和江訳, 1987, 『フェミニズム社会科学に向かって』)

Hall, S., 1988, *The hard road to renewal: Thatcherism and the crisis of the left*, London: Verso.

Hall, S. and Paul Du Gay, 1996, *Questions of cultural identity*, London: Sage. (柿沼敏江[ほか]訳, 2001, 『カルチュラル・アイデンティティの諸問題：誰がアイデンティティを必要とするのか?』東京：大村書店)

Said, E.W., 1978, *Orientalism*, Georges Borchardt Inc., New York, Vintage Books Edition (板垣雄三・杉田英明監修、今沢紀子訳 1986 『オリエンタリズム』平凡社)

Said, E.W., 1993, *Culture and Imperialism*, Alfred A. Knopf, New York. (大橋洋一訳 1998-2001 『文化と帝国主義』1, 2, みすず書房)

Derrida, J., 1967, *L'écriture et la différence*, Le Seuil. (若桑毅他, 1977-83, 『エクリチュールと差異』法政大学出版局)。

Derrida, J., 1967, *De la grammatologie*, Minuit. (足立和治訳, 1971, 『根源の彼方に：グラマトロジーについて』現代思潮社)。

Derrida, J., 1993, *Specters de Marx*, Galilée. (『マルクスの亡霊について』)。

Derrida, J., 1994, *Politique de l'amitié*, Galilée. (『友愛の政治』)。

Derrida, J., 1997, *Cosmopolites de tous les pays, encore un effort!*, Galilée. (港道隆訳, 1996, 『万国の世界市民たち、もう一努力だ!』『世界』1996.11, 岩波書店)。

Spivak, G. C., 1988, "Can the Subaltern Speak?" in Nelson, S. & Crossberg, L., eds., *Marxism and the Interpretation of Culture*, University of Illinois Press. (上村忠男訳, 1998, 『サブアルタンは語ることができるか』みすず書房, (みすずライブラリー)。1999, 第1版第2刷)。

Spivak, G. C., 1987, *In Other Worlds: Essays in Cultural Politics*, New York: Meteuken, Routledge, 1988. (鈴木聡[ほか]訳, 1990, 『文化としての他者』紀伊國屋書店, 2000, 復刊版)。

Spivak, G. C., 1990, *The Post-Colonial Critic: Interviews, Strategies, Dialogues*, ed. by S. Haraysim, Routledge. (清水和子, 崎谷若菜訳, 1992, 『ポスト植民地主義の思想』彩流社、再版。1999)。

Spivak, G. C., 1999, *A critique of postcolonial reason: toward a history of the vanishing present*, Cambridge, Mass.: Harvard University Press.